

## 2. 内外の芸術を知り、アーティストなどとの関係を構築する

地域文化施設において適切な事業を行うには、その対象、手段となる芸術に関する情報が必要である。その反面、地域文化施設には情報を有する専門的な職員が少ない場合も多い。また、専門的な職員が配置されていても、芸術の世界は多種多様であり、持ちえた情報で必ずしも十分であるとも言えない。そこで、地域文化施設には、あらゆる情報源を活用し、絶えず情報収集することが求められる。

### (1) 内外の芸術を知る

音楽、演劇、舞踊、映画、美術をはじめとした芸術全般に関する動向、さらには全国各地で繰り広げられる芸術と地域とのつながりの実例を知ることは欠かせない。

### (2) アーティストなどとの関係を構築する

アーティストをはじめ、事業を通して関わった人々とコミュニケーションを図り、彼らの考え方や舞台創造の理念とノウハウを知ることは大切である。その過程において、地域文化施設と共同で事業を推進できるアーティストなどとの親密な関係の構築が可能である。また一方で、地域文化施設や地域社会が求めていることを、彼らにも伝えるべきである。アーティストたちが地域のニーズを知ることで新しい活動が芽生えることもある。

### (3) 地域のアーティストを知る

有能なアーティストは地元にもいる。地域文化施設のスタッフは、彼らとプロのアーティストとの出会いや協働作業を積極的にアレンジし、市民をも協働の参加者として招き入れながら、独自のプログラムづくりに取り組む必要がある。

## **[芸術に関する情報源について]**

### **1. 地域文化施設の事業に関する資料など情報の収集**

新聞、地元情報誌、専門雑誌など数多く書籍に芸術文化の情報が掲載されておりチェックする必要は言うまでもないが、あわせて地域文化施設の業務に関する資料を収集する必要がある。

#### **(1) プロフィールや連絡先を調べるための資料**

現在活動しているアーティストのプロフィールや連絡先の情報については、専門雑誌を発行している出版社が年に1回発行する年鑑などから入手できる。(音楽之友社「音楽年鑑」、美術手帖の増刊号「BT年鑑」(美術出版社)など)

#### **(2) 用語や作品の内容を調べるための資料**

クラシック音楽事典や美術事典、演劇用語、舞台の裏方用語に関する書籍は必要。また、実際に自分自身で書店や図書館などで手に取って、使い勝手を確認することが大切である。

#### **(3) 業界団体の活用**

業界団体が作成している発行物にも地域文化施設の実務に役立つ資料が数多くある。地方公演を予定している団体の公演のリストを集めた「公演事業資料」( (社) 全国公立文化施設協会) などが有名だが、そのほか各種業界には団体や連絡会が数多くあり、報告書や機関紙を発行しているので取り寄せてみても良い。また、これら団体は同時にホームページを開設している場合も多いので、定期的にアクセスし動向を確認すべきである。

### **2. 自ら足を運ぶ**

#### **(1) 公演などに赴き、自分自身で体感する**

資料収集のみならず、実際に公演などに赴き実際に鑑賞することこそ、最大の情報収集である。また、その際には、アーティストなど関係者に接触する機会を持つよう努めるべきである。

#### **(2) 研修会に参加する**

地域創造のステージ・ラボなど各種団体が地域文化施設向けの研修を行っている。また最近では、アートマネジメントなどの公開講座を開講している大学や自治体も数多く見られる。こうした研修に参加し、各界の専門家などから情報を入手することは重要である。また、参加者間でも情報を入手できる場合やネットワークが生まれる場合もあり、積極的な活用が望まれる。

### (3) その他

アーティストや舞台芸術関係者が集う芸術見本市などに参加するほか、地域文化施設間で情報を交換する場を積極的に設け、主体的に情報を獲得するよう努める必要がある。

## [地域の芸術家・愛好家との連携事例]

### 厚木市文化会館 | 地元のハーモニカ愛好家との交流

- 「ポケットに入るオーケストラ」といわれ、世界の人に愛されている楽器・ハーモニカは、その親しみやすさから、近年、市民交流、国際交流のツールとして注目を集めている。
- 厚木市には、世界的なハーモニカ奏者、岩崎重昭氏が住み、門下生が数多く活動、また愛好家も1,000人を数えることから、市では1999年から「ハーモニカのまち あつぎ」を提唱し、市民文化会館でのコンサートやイベントなどでバックアップしている。
- 例えば、「あつぎハーモニカコンサート」では、日本を代表するベテランのハーモニカ奏者ととも岩崎氏に学んだ若いプレイヤーたちが出演。また、岩崎氏の門下生たちが指導を行っている市民愛好家たちに成果発表の場を提供する「吹いちゃいます！ハーモニカ！！」や各種ワークショップを実施するなど地域の芸術家・愛好家と連携した事業を展開している。
- 2002年には、1996年にアジア太平洋地域でスタートした「アジア太平洋ハーモニカ大会」の第4回大会が厚木市で開催され、各国トッププレイヤーによる「ガラ・コンサート」をはじめ、「郷土芸能お国自慢コンサート」、「国際親善コンサート」やコンテスト、ワークショップなど盛りだくさんのプログラムが行われた。屋外では交流テント村も設営され、ハーモニカ愛好家などからなるボランティアスタッフの運営で大会が盛り上げられた。
- 厚木市文化会館：〒243-0032 神奈川県厚木市恩名295-1、Tel. 046-225-2588



### 広島市安芸区民文化センター | 地域の演奏家を芸術ボランティアとして活用

- 広島市安芸区民文化センターが2001年度から行っている「あきクラシックコンサート」。これは、広島在住の、20～30代のさまざまな音楽大学の卒業生約30名が「あきクラシックコンサート実行委員会」（ボランティア組織）を組織し、その企画・運営・出演のもとに、同センターや区内の公民館をフランチャイズにして開催するコンサートである。2002年度は全6回（12日間）のホールコンサート、全5回（5日間）の公民館コンサートが行われ、委員のほか、委員からの推薦を受けた演奏家約80名（延べ約120名）が出演、観客は約3,500人にもなった。
- ホールコンサートでは、前半はテーマに沿って、後半は在広演奏家紹介コーナーとしてミニリサイタルで構成し、クラシックの名曲を中心に解説なども取り入れた分かりやすいコンサートを開催。公民館コンサートでは、童謡やアニメソング等を取り入れて親しみやすいコンサートを実施。定期的なコンサートを開催することによりクラシックファンを開拓するとともに、若手演奏家の育成（演奏、企画力）も目的にしている。センターは、事務局として企画助言や運営補助、会場提供のほか広報誌による宣伝などを行っている。
- 2003年度の企画では、他の都市で先駆的な音楽ボランティア活動をしている2つの民間団体との相互交流も図られる。
- 広島市安芸区民文化センター：〒736-8509 広島県広島市安芸区船越南3-2-16、Tel. 082-824-1330

